

対馬で御神事をする必要があると感じたキッカケ

対馬で御神事をしなければならない、と思った直接のきっかけは、昨年 2018 年 10 月 30 日に韓国の最高裁（大法院）で出された判決です。元徴用工だった韓国人の原告 4 人の申し出を認め、新日鉄住金に、4 億ウォン（約 4000 万円）を支払うよう命じる判決がでたのです。

この判決が影響し、「1965 年締結の日韓基本条約や日韓請求権協定」が反故にされるかもしれないという危機意識を強くもった。

国法や国際法が遵守されなくなったら、行き着く先は、軍事力による「力勝負」の領域に入っていきます。

神様がいらっしゃいますが、人間は人間で、社会の到達を踏まえて、国法や国際法によって解決していく姿勢が大事です。

昨年 2018 年 12 月から、人の立場から、この元徴用工問題に筋を通すためにも、対馬で御神事をする必要がある、と言いつけてきました。

しかも、対馬の南にある豆つつ殿たくづだまの多ゆき久き頭魂神社は悠紀宮といわれ、対馬の北にある佐護さごのあまのかみ天すき神多たくづだま久き頭魂神社は主基宮といわれているので、天皇陛下の御代替わりにあたって御神事をやっておく必要があります。

新天皇陛下の御即位にあたって行われる大嘗祭では、東の御米を食す悠紀殿ゆき（11 月 14 日）と西の御米を食す主基殿すき（11 月 15 日）が設けられて儀式が行われますが、この悠紀殿ゆきと主基殿すきの原初形態が対馬にあるのです。

豆つつ殿たくづだまの多さご久あまのかみ頭魂神社と佐護たくづだまの天すき神多さご久あまのかみ頭魂神社で、南北の合わせ御神事をしないと動くべき日本の国論が動かない。

日本は、神の国なので、神の国には神の国のやり方があります。

5月18-19-20日の対馬の御神事のあと、懸案の徴用工問題は動きました。

5月18日に豆つつ穀たくづだまの多さ久ご頭あまのかみ魂たくづだま神社と佐護さごの天あまのかみ神たくづだま多さ久ご頭あまのかみ魂たくづだま神社での合わせ御神事。

5月19日に海神神社と和多都美神社での御神事。

5月20日に龍良山たつらさんの南麓はっちょうかくの表八丁はっちょうかく郭はっちょうかくと北鹿はっちょうかくの裏八丁はっちょうかく郭はっちょうかくでの御神事。

5月20日(月)に、日本政府は、日韓請求権協定第3条2項に基づく仲裁委員会の設置を韓国政府に要請しましたので、私の5月18-19-20日の対馬御神事に呼応して、日本政府が対応した形です。

5月の対馬御神事に向けた準備は、昨年2018年12月から行ってきましたので、準備の動きと、今回の御神事本番でキッチリとやり遂げた、といえます。

しかも、対馬御神事にご協力いただいたみなさまに、対馬御神事の返礼品を発送した5月30日に、日本政府は、韓国水産物の検疫強化を打ち出しました。

2011年以降、韓国は福島など8県の水産物の禁輸措置を取っていたので、日本政府は2015年8月に世界貿易機関(WTO)に提訴していました。昨年2018年2月、一審に当たる紛争処理小委員会(パネル)は、禁輸は「不当な差別」と認めて是正を勧告しました。ところが、4月11日、二審制の最終審である上級委員会は「数値基準以外の分析が足りない」として、韓国の禁輸措置を認める判断を下し、日本側の「逆転敗訴」が確定しました。

世界貿易機関(WTO)のいう「数値基準以外の分析」とは韓国の国民感情が大事だという趣旨です。

韓国だけ、国際法を超えて、好き嫌いが許されていいわけがありません。

日本政府の「韓国水産物の検疫強化」という措置も、神様に、私の対馬での御神事を考慮していただいて、日韓関係の差配を組んでもらっている、と実感します。

日韓請求権協定第3条2項の規定から、日本政府は韓国に、6月18日までに委員を選ぶように求めていました。

6月17日(月)は射手座の満月の日なので、月の光奉賛会の御神事日を行いました。

神様は、重要なポイントが満月の日に当たるように予定を配置してくださっているかのように顕れています。

ところが、韓国政府は、6月18日(火)までに日本が求めている仲裁委員を選任しませんでした。そのため、6月19日(水)、日本政府は

「7月18日までの第三国を選定するように」

と、韓国政府に次の段階の要求を出しました。

日本政府が選んだ第三国と、韓国政府が選んだ第三国で、もう一国を選定し、この三者の協議に委ねる方式です。

この手順までは、日韓請求権協定に明記されています。

しかし、日韓請求権協定にはこれ以降の定めがありません。これに対応するために日本政府は次の対応策を講じました。

6月21日(金)に、日本政府は、差し押さえられた日本企業の資産が売却された場合、国連で2011年に明文化された国家責任条文で韓国に賠償請求の方針を固めました。これは2001年に国連国際法委員会が採択した国家責任条文で明文化されたもので、国際法違反行為に関する国家の損害賠償義務を明記しています。

韓国政府側が7月18日までに第三国の仲裁委員会の設置に応じない場合、日本政府は6月28-29日に大阪で開く20カ国・地域(G20)首脳会議と韓国政府の動きを踏まえて、国際司法裁判所(ICJ)への提訴へと動くことになるでしょう。

国際司法裁判所(ICJ)への提訴となれば、竹島問題も国際司法裁判所(ICJ)で取り扱われるようになっていくのは時間の問題です。

奇しくも、次の満月の日は、7月17日(水)で、対馬御神事の日になっています。

ここでも、神様は対馬での御神事をご覧になられて、国際情勢を整えようとされているかのように現われています。

7月の対馬御神事が決まりましたら、またご案内させていただきます。

神の国は、神の国らしく、御神事を行ったうえで、国法と国際法に立脚し、物事を進めていくべきです。

日本は海洋国家なので、対馬と壱岐島の動きを整えないと、日本の国論にならないのです。

神話史上にみる対馬の位置

『ひふみ神示』『五十黙示録』(コスモ・ヴィジョン)に次の記述があります。

 天に星のある如く 地には塩があるので、シホ、コオロコオロにかきならして大地を生みあげた如く、ホシをコオロコオロにかきならして天を生みあげたのであるぞ。

天の水、地の水、水の中の天、水の中の地、空は天のみにあるのではないぞ、地の中にもあるのぞ、

「五十黙示録」第3巻「星座の巻」第一帖

天のホシ（火の子・星）と地のシホ（塩）は密接に関係があつたらしい。

火と水は同態であって、火が水になった時点で、ホシ（火の子・星）が、水面に映しだされシホ（塩）となるのです。

つまり、ホシ（火の子・星）も水面のシホ（塩）も同態です。

<天>

星の古語が豆酸（つつ）

ホシ (星)

水面

龍良山

龍良山から離れた位置に
オノコロ四音
が出来る。

シホ (鹽)

<地>

天地開闢のオノコロのとき、水面に映ったシホ（塩）をコオロコオロと掻き鳴らして「オノコロ四音」を産み上げました。

コオロコオロと掻き鳴らすと、中心に渦が発生します。

この渦の中心軸は、天のホシ（火の子-星）と地のシホ（塩）の中心軸になっている。

つまり、この中心軸が天地開闢という万物創造の中心軸に当たるのです。

1995 年から日本各地を周っていて、「ホシ（火の子-星）映しの御神事」をやる必要性を感じていましたが、対馬の^{たくづだま}多久頭魂神社での御神事が「ホシ（火の子-星）映しの御神事」につながるモノだったらしい。

対馬の^{つつ}豆酏で遥拝してきた^{たつらさん}龍良山が、この中心軸の中心点にあたる。

水面にホシ（火の子-星）が映り、シホ（塩）となるので、^{しほつちのおじ}海神と塩土老翁神は同時に産み上げられている。

こういう理屈で、対馬には海神神社が置かれることになったようだ。

対馬の^{つつ}豆酏で遥拝してきた^{たつらさん}龍良山が、天地開闢という創造の中心軸なので、^{あまてらすすめおおみ}天照皇大御

^{かみ}神様が天童として対馬の^{たつらさん}龍良山に御降臨できたのです。

^{ひのこ}火子（ホシ）が水面に映しだされシホ（塩）となった中心ポイントを象徴するのが^{たつらさん}龍良山だったのでしょ。豆酏とは、古語で「星」のことだそうです。「星」とは、日が生まれると書きます。

^{たつらさん}龍良山のある場所を中心に、シホ（塩）をコオロコオロと掻き鳴らすのです。中心点か

ら離れたところにオノコロの四音が産み上げられ、^{うましあしかびひこじ}宇摩志阿斯訶備比古遲神の初発の天地

創造が行われ、伊邪那岐命と伊邪那美命の二番目の国産みと神生みをしていきました。

初発のオノコロの四音が和歌山県の友が島であり、二番目のオノコロの四音が島根県の隠岐諸島です。

^{たつらさん} 対馬の龍良山から離れた場所にオノコロの四音が、それぞれ産み上げられている。それ

ぞれの天地創造のとき、^{つつ たつらさん} 豆敷の龍良山が、^{あまてらすすめおおみかみ} 座標の中心を示していたので、天照皇大御神様が天童として降臨できたのです。

いやはや、
なんとも
スゴイことだ。

ようやく納得できました。

(※) シホ（塩）についていえば、シホ（塩）の臨界点が宮城県の塩竈神社なのでしょう。

対馬の「天童」（天照皇大御神様）とはどういう存在か？

^{たつらさん} 遠い神代の昔、対馬の龍良山に降臨された「天童」とは、前の宇宙の主宰神の「秘蔵っ子」です。ビックバーン以降、大神たちは、時がやってくるまで、「秘蔵っ子」を秘匿し続けてきたのです。

^{あめゆずるひあまのさきりくにゆずるつきくにさきりのみこと} ビックバーン宇宙以前の、宇宙の主宰神は、天讓日天狹霧國禪月國狹霧尊といわれ、箱根山の最高峰である神山に御鎮まりになられています。ビックバーンによって、

^{あめゆずるひあまのさきりくにゆずるつきくにさきりのみこと} 前の宇宙が崩壊したとき、天讓日天狹霧國禪月國狹霧尊の御神体がチリジリバラ

^{たつらさん} バラになっていくのですが、このとき、対馬の龍良山に「天童」として顕れた御子神が、大事に秘匿されたのです。

^{たつらさん}
なぜ龍良山に秘匿できたかといえば、天地開闢という創造の中心軸の中空は、周辺が激動していても、無風状態に置かれるからでした。

天之御中主神様からスタートするビックバーン宇宙のなかで、前の宇宙とビックバーン宇宙を統合する象徴として、とても大事に秘匿され続けてきたのです。

対馬の「天童」のを知る神々はほとんどいませんが、伊勢神宮には天照皇大神宮と^{てんしょうこうたいじんぐう}
して御名前が示されています。伊勢では、天照皇大神様とは、天照大御神様のことと説明されてきました。

上皇陛下の御譲位と新天皇陛下の御即位も無事に終え、こういう事情を秘匿する必要もなくなったので、対馬の「天童」を天照皇大御神様として顕す御神事が、今回5月18-19-20日の対馬の御神事でした。

対馬の御神事が整い、天照皇大御神様が御活動を始めると前の宇宙の主宰神・天^{あまてらすすめおおみかみ}譲^{あめゆするひ}日^{あまのさきりにゆするつきくにさきりのみこと}
天狭霧國禪月國狭霧尊も復活し始めるのです。

それが、5月18日から始まった箱根山の火山振動でした。

▼箱根山の火山性地震の発生回数（速報値）

地震回数

5月17日	0回
5月18日	45回
5月19日 15時まで	48回
5月20日	入山規制

5月18日に、箱根山の火山振動が急激に起こったという顛れをみても、今回の対馬御神事が成功だったと裏付けられています。

対馬の御神事によらなくても、鬼界カルデラの噴火でも天童を天照皇大御神様として顕すことができる。

平成 30 年（2018 年）7 月 25 日に発生した台風 12 号は、7 月 29 日午前 1 時頃に三重県伊勢市付近に上陸し、西進し続けた逆走台風です。この逆走の進路は、神武天皇の東進ルートに当たっていました。

台風 12 号は、九州を南下し、8 月 1 日に鹿児島県屋久島付近でループを描き、沖縄県東シナ海で小さなループを描き、西進し 8 月 3 日頃に中国の上海付近に上陸し、同日 21 時に華中で熱帯低気圧に変わりました。

東から西、西から南へと進む異例のコースから、“逆走台風”とも呼ばれました。

台風 12 号（逆走台風）が、種子島・屋久島と奄美大島の海域で、ループを描いたのは 2018 年 8 月 1 日でした。

この 2 か月前、2018 年 5 月 28 日のヤフーニュースに、神戸大学海洋底探査センター教授・巽好幸氏の

「準備段階に入った鬼界海底巨大カルデラ噴火：滝沢秀明が採取した岩石が決め手に」という記事がアップされていました。

私は、2018 年 5 月 18 日にアメリカ・イギリス、イスラエルでの出版原稿を書き上げていたので、この鬼界カルデラの記事を、共時性を感じられる出来事として記録に残しています。

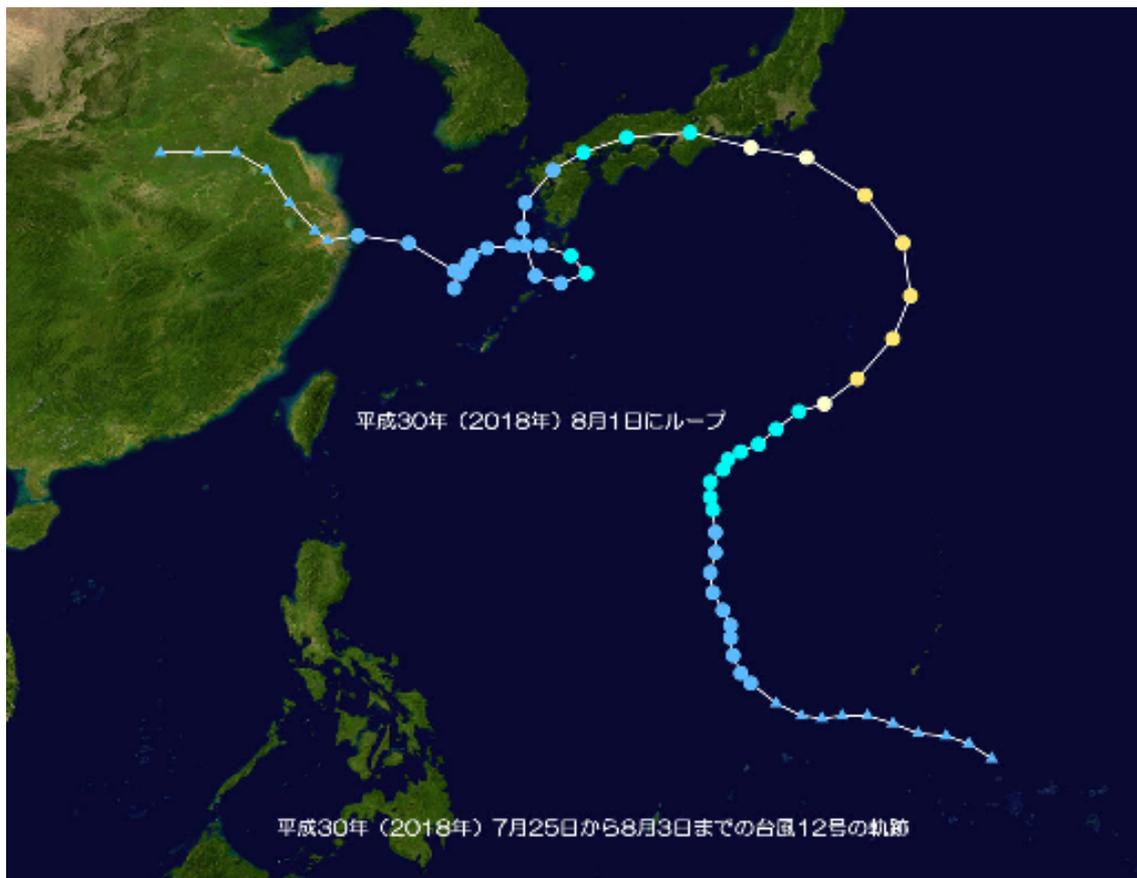
私は、2017 年 5 月 14 日に淡路島の古代ユダヤ遺跡の第 65 回発掘記念式典と第 69 回イスラエル建国記念式典を開催してから、日本神話と「創世記」の関わりをまとめてきました。

ノアの洪水とホピの洪水に、対馬の果たした役割は大きかったと思います。

高天原の水が海原に落下する衝撃と、海の水が解かれる衝撃を対馬で緩和してくれたらいい。天と地につながる垂直に立っていた御柱が、ノアの洪水とホピの洪水をキッカケに水平軸に倒れてしまったと想像できます。この垂直に立っていた御柱は、奄美大島から対馬の東経上に倒れているようにみえます。

高天原の復興というのは、対馬から奄美大島の東経ラインに倒れている御柱を、垂直に立ち上げる動きを伴っているようにみえます。

天と地につながる御柱を立ち上げる時の起爆剤として、鬼界カルデラの地質学的エネルギーを用いるかのようにもみえます。



平成 30 年（2018 年）の台風 12 号（逆走台風）は、「鬼界海底巨大カルデラ噴火」が準備段階に入っていることを伊邪那美命がこの世の人たちに明示してくれている動きのようにも見えました。

換言すると、高天原を復興させるために「鬼界海底巨大カルデラ」のマグマ溜りのエネルギーは臨界点に達している、と伊邪那美命が示されたらしい。

あるいは、「鬼界海底巨大カルデラ」の爆発力を用いて、対馬の天童を天照皇大御神様として顕すこともできるようになった、ともいえます。

「鬼界海底巨大カルデラ」の爆発力を用いて高天原の復興をするのではなく、人が関与して高天原の復興がなされた方が穏便に次の時代への移行ができます。

「鬼界海底巨大カルデラ」の爆発力を用いて、対馬の天童が天照皇大御神様への転換が量られるのではなく、人が関与した御神事によって、天照皇大御神様への転換なされたほうが、穏便に済みます。

次の神の世に移行していくのに、どの程度、人が関わられるのかを、神が試されているのだと思います。

「あなたがやらなくとも、なるようになっているのよ」

という方もいらっしゃるが、2011年の3.11を経験している私にとって、このまま放置してダマッテみている勇気がありません。



5月18日に豆つつ餠たくづだまの多さ久ご頭あまのかみ魂たくづだま神社と佐護さごの天あまのかみ神たくづだま多さ久ご頭あまのかみ魂たくづだま神社での合わせ御神事行った日の夕方、屋久島で50年に一度の集中豪雨に見舞われて、260人以上の人が取り残されるといいうニュースが報道されました。神は、日本人の関心を、鬼界カルデラ東南に位置する屋久島に集中させることによって、鬼界カルデラのエネルギーを分散してくれたのだと思います。

5月18日に豆つつ餠たくづだまの多さ久ご頭あまのかみ魂たくづだま神社と佐護さごの天あまのかみ神たくづだま多さ久ご頭あまのかみ魂たくづだま神社での合わせ御神事を行ったことによって、自然の壊滅的なエネルギーを用いることなく、対馬の天童を天照皇大御神様への転換が図られ道が出来たのだと思います。

道はでき、道はみえました。あとは一歩ずつ歩むだけなのですが、果たして歩みきれん
だろうか？

シンドイものを感じるのは確かです。

天照皇大御神様の御神影

同封した天あまてらすすめおおみかみ照あまてらすすめおおみかみ皇あまてらすすめおおみかみ大御神様の御尊顔をご覧になられてください。子供の雰囲気をもって
らっしゃるでしょう？

天あまてらすすめおおみかみ照あまてらすすめおおみかみ皇あまてらすすめおおみかみ大御神様の頭に載っている宝塔が、おそらく対馬でみられる塔頂の淵源だと思
われます。天あまてらすすめおおみかみ照あまてらすすめおおみかみ皇あまてらすすめおおみかみ大御神様が太陽を背にして地球に降り立たれていますが、その下の中

心たつらさんが対馬の龍良山だと思ひます。

合わせて同封しました御神影は、伊勢の天照大御神さまです。

現在、高たかあまはら天原復興の先頭に立たれています。

日本の天津神の御神勅では、天照大御神様は高たかあまはら天原を知らず役、素戔鳴命様は海あまはら原と

天あまがした下を知らず役、月読命様は夜おの喰す国を知らず役と定められています。

2017年5月14日の淡路菰江古代ユダヤ遺跡において、天照大御神様に求められた御神事をやりとげた翌日5月15日の日没後、かむろぎかむろみのみこと様から次の御言葉がありました。

「日も落ちた 今入らんとす あまてらすすめおおみかみ 天照皇大御神の御旨に」

2か月経た同年7月15日に天之御中主神様から御言葉がありました。

「この世の統治の仕方を天照皇大御神様を通して示す」
あまてらすすめおおみかみ

天照大御神様も素戔鳴命様も月読命様も、全て天照皇大御神様の動きを見ながら御活動になられています。
あまてらすすめおおみかみ

「鬼は外」の「外」は、浅藻の「卒土」で、「鬼は外」で対馬神道への呪詛になっている！

対馬の浅藻という地域は、龍良山の南側の浅藻浦に面した豆殿の入会地です。豆殿の人たちにとって、浅藻は神様の土地という認識だったので、明治28年(1895年)まで人が住んではいけない土地でした。明治28年(1895年)に山口県大島郡の梶田富五郎という人が、豆殿の人に無断で入植したのが、人が住み始めた端緒だといえます。豆殿の人たちから、浅藻は卒土の浜と呼ばれ、卒土の浜から見える龍良山は卒土の山と呼ばれていました。

「天童」信仰のある龍良山も、人が入ってはいけない山でしたが、現在は登山できるようになっています。
たつらさん

人間の靈魂を「魂魄」といいますが、精神や心に属する靈を魂(たましい)と呼び、天神に帰属するものと考え、体に属する靈を「魄」と呼び、鬼の領域と考えてきたようです。豆殿

の人たちが認識する浅藻の卒土とは、伊邪那岐命と伊邪那美命が御造りになられた人体を加護する神聖な領域だったらしい。伊邪那岐命と伊邪那美命が御造りになられる人体の領域を浅藻の「鬼」が御護りになられてきた。

それに対して、豆殿では、精神や心に属する魂（たましい）を天神の領域と認識していたようです。簡単にいえば、心と体の世界があって、心の世界は豆殿が担い、体の世界は浅藻の卒土が担ってきたのです。



この「魂魄」という靈魂の二元構造は、神代の昔の天照大御神様の岩戸閉めと、天之岩戸開きに端緒を求めることができます。

神代の昔に発生した靈魂の二元構造を、対馬の^{つつ}豆^{あざも}と浅藻で担ってきたのです。

日本人を日本人たらしめる御神事をやってきた場所が、対馬の^{つつ}豆^{あざも}であったといえるのだと思います。

仏教が流入し始めた飛鳥奈良時代に、時流は私利私欲を自制する対馬神道が疎ましくな
って、「私利私欲を自制する^{あざも}浅藻の^{そと}鬼は卒土に帰れ」とばかりに「鬼は外」と、「豆」を投
げつけられ、対馬神道は呪詛されるに至ります。

^{つつ}豆^{あざも}に「豆」を用いるのも、そういう歴史の痕跡でしょう。

「鬼は外」の呪詛は、天^{あまてらす}照^{すめ}皇^{おお}大^み御^{かみ}神様が表で御活動し始めると、解けるようになって
いるのでしょう。

月の光奉賛会で現在行っている対馬の御神事の位置はこういうものです。
今後ともご協力お願いします。



2019年6月23日 月の光奉賛会 代表 成田亨。

〒177-0033 東京都練馬区高野台 1-23-20 ガーデンコート高野台 805

携帯 080-9175-4666

メール：naritatooru@gmail.com